

向井潤吉 民家に宿るいのち

1997年1月4日[土]—3月30日[日]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)
休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)
観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)
()内は20名以上の団体料金 65歳以上の方160円

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

《梅の中の家》制作年代不詳



向井潤吉 民家に宿るいのち



《マタギの家 根子部落にて》制作年代不詳

このたび向井潤吉アトリエ館では、向井潤吉先生が描いた民家作品を中心とした、『向井潤吉—民家に宿るいのち』展を開催いたします。

向井潤吉先生が、日本の草屋根の民家を描き始めたのは、終戦を迎えた昭和20年のことでした。

戦中には陸軍の報道班員として、さまざまな戦地に従軍しながら、記録画の制作に携わっていた向井先生は、そのさなかに、戦争の実態をつぶさに肌で感じ、この虚妄で強大な暴力に蹂躪される哀れな人間の悲惨さを、いやがうえにも痛感されていました。

向井先生の心の中に、ある種の戦争に対する感慨が、徐々に形を整えはじめ、それはやがて、日本の原風景とも言える民家を含む豊かな山河、自然への想いを募らせることになったのではないのでしょうか。

戦後間もなく、疎開をされていた娘さんを迎えるために、新潟県川口村に出かけた向井先生は、その手にキャンバスを携え、民家の第一号の作品である『雨』を制作されました。

以後、向井先生の民家を求めての遍歴は40年以上におよび、数多くの民家作品が制作されてきました。それらの作品は失われていく日本古来の草屋根の民家をキャンバスに描きとめるだけでなく、同時にその様相を急速に変貌させてきた日本各地の風土そのものを描くことになり、それら諸作品は、さまざまな意味において貴重な記録の意味も持ちはじめていると言えます。

ひとつひとつの民家には、その民家の構造や機能を形成してきた土地の風土、産業、生活習慣などが染み込んでおり、それぞれに独特の生活感がたayoうものです。

向井先生はそうした、民家の個性と言えようなものを、絵画という手法を使って周囲の自然環境をも画面にとりこみながら、記録されてきたと言えるのではないのでしょうか。

しばしば、向井先生の民家作品を鑑賞し、その感想の言葉の中に、“郷愁”という言葉が耳にしますが、それは、作品が人それぞれに独特な懐郷の念を喚起させるだけの魅力を湛えているということだけではなく、草屋根の民家ゆえに宿り得る、いのちと輝きを、そこに感じとるからなのかもしれません。



《奥多摩の秋(東京都奥多摩郡)》制作年代不詳



《新雪(埼玉県秩父市寺尾)》1988年



《不詳(長野県更埴市森区)》制作年代不詳



《妙高高原(新潟県中頸城郡妙高高原町)》制作年代不詳



《水郷風景(福岡県柳川市)》制作年代不詳

●最寄り交通機関のご案内

東急新玉川線【駒沢大学】 駅西口 下車/徒歩10分

東急世田谷線【松陰神社前】 駅 下車/徒歩17分

東急バス (渋05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分

東急バス (等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分

東急バス (渋11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

東急バス (渋13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1

TEL 03-5450-9581

